

## 令和元年度 奈良市立都祁こども園 研究実践概要

園長名 井上 邦子  
全園児数 134名

1. 研究主題 「心豊かで 生き生きと生活する子どもの育成をめざして」  
～ “わくわくドキドキ、どうなっているんだろう”  
心をくすぐる環境のあり方に着目して～

2. 研究年度 2年度

### 3. 研究主題設定理由

0歳児から5歳児までの様々な園児が自分のしたい遊びや友達と好きな遊びを見つけて遊ぶ姿はあるが、目的が持てずじつくりと遊び込むことが少ないように感じられた。そこで「ふしぎだな」「おもしろいな」「どうなっているのかな」「もう一度やってみたい」と、わくわくと心を動かしながら人やものに関わる為にどのような環境構成が必要なのか考えたいと思い研究主題に設定した。

### 4. 具体的な研究内容

#### ①研究のねらい

- ・わくわくしながら様々な環境構成に興味や関心を深め、子ども自らが遊びに主体的にかかわり、夢中になって遊び込む為の環境構成について明らかにしていく。

#### ②研究の重点

- ・わくわくしながら子どもが夢中になって遊び込む為に〈もの〉〈こと〉〈ひと〉とのかわりや保育内容を工夫し子ども理解や援助のあり方について考える。

#### ③活動の方法

~~~~~ 子どもの心が動く瞬間 ~~~~~ 保育者の声かけや環境で心が動く瞬間

#### 【0歳児】10月 A児(1歳5ヵ月)の姿から

A児は行動範囲が広がり、室内をあちこちと探索をして楽しんでいる。保育者が「楽しいことしようかな。」と新聞紙を広げるとそれを見ていたA児が興味を示し近づいて来たので「A君もやってみる。」と声かけすると「うん。」とうなずいた。一緒に破いてみるとビリビリと音がしたことに「あっ。」という表情を見せ不思議そうにしていた。「ビリビリと音がするね。」と声をかけると、笑顔で保育者の顔を見ながら真似て破こうとするが、なかなか破けずにいたので手を添えて「ビリビリやね。」と声をかけながら一緒に破き始めた。何度もしているうちに一人で出来るようになり、出来たことが嬉しくて、「見て見て。」という仕草を見せ満足気に保育者の顔をのぞき喜んでいた。破くことがおもしろくなり嬉しそうな声を出し、何度も何度も楽しんでいた。



#### <評価>

- ・初めて新聞紙遊びをした時は、じつと見たり、口に入れたりしようとしていたが何回か遊んでいると、自分から触ろうとしたり保育者の真似をしようとする姿が見られるようになった。保育者が声をかけたり、一緒に遊ぶ中で感触を感じたり、聴こえてくる音に気づくことが出来た。楽しめる環境をつくり、やってみたい気持ちや姿を見逃さずに関わりを大事にしていきたい。

【1歳児】12月 A児（2歳6ヵ月）の姿から

A児（2歳6ヵ月）は、ままごと遊びや人形に興味を持ち、お皿に玩具の食べ物やお手玉を入れて机の上に置いたり、人形を抱っこしたりして遊んでいる。A児は、座って人形を抱っこして、玩具の食べ物を人形の口に持っていき食べさせるしぐさをしていた。その様子を見ていたB児（1歳8ヵ月）はコップを見つけると、A児が抱っこしている人形の口に持っていき、A児と同じ遊びをしようとする。保育者が「お人形さんおいしいといっているのかな。」「B児ちゃんもってきてくれたコップでのめたかな。」などA児とB児の姿を見て代弁すると、また違う食べ物を持ってきて食べるしぐさを繰り返して楽しんでいる。保育者は「お人形さんおいしそうだね。」「もうおなかがいっぱいになったかな。」とA児とB児の思いを言葉にしながら共感する。A児は、人形を抱きかかえて近くを歩き布団を見つけるとその上に人形を置いた。保育者が「お人形さんねむくなったのかな。」と声をかけると、A児は「ねんね。」とうれしそうにうなずいた。



<評価>

- 子どもが人形を使って遊んでいる様子を見守りながら、人形に食べ物を食べさせようとするしぐさや、布団の上に寝かせようとするしぐさなど思いを代弁し共感することで見立てやつもり遊びをして楽しむことができた。友達のしぐさや動きをまねて同じように楽しもうとする姿をくみとり保育者が仲立ちとなって遊べる働きかけも大事にしていきたい。

【2歳児】10月 カブぬいてんねんA児（3歳1ヵ月）の姿から

園庭の隅の草を、引っ張っているA児。「なにをしているの。」と保育者が聞くと「カブぬいてんねん。」とA児。「大きなカブ」の絵本の一場面をイメージし、草をカブに見立て抜こうとしている思いに気付き、A児に「誰か呼んでこようか。」とたずねると「ねこ。」と嬉しそうにA児。保育者が猫になり、「にゃーお、どうしましたか。」とたずねると「引っ張って、ここ。」と服の後ろを指さす。「わかりました。」と服を持つ。A児が、「うんとこしょ、どっこいしょ。」と草を引っ張る。草が抜けないので「まだまだカブは抜けません。」と保育者が言うと「おじいちゃん呼んできて。」とA児。近くにいたB児に「Aちゃん、大きなカブ抜いてんねんけどぬけないねん、手伝ってくれる。」と伝えると「いいよ。」と、B児もA児のところに来てA児の後ろを引っ張る。「うんとこしょ、どっこいしょ・・・まだまだカブは抜けません。」そんな様子に気付いたC児、D児も「どうしたん。」と、集まってきた。「カブがぬけないねん。」とA児。それを聞いたC児、D児も、引っ張ろうとしてつながっていく。「うんとこしょ、どっこいしょ・・・まだまだカブは抜けません。」と、カブ抜きは続いていった。



<評価>

- 園庭の草を「おおきなかぶ」の絵本に出てくる「カブ」に見立て抜こうとしていたA児の姿に保育者が気付き、A児のイメージに共感し、一緒に見立て遊びを楽しんだ。A児と保育者が「うんとこしょ、どっこいしょ・・・まだまだカブは抜けません。」と抜こうとしている姿、また子ども達の大好きなフレーズの声がけに他児も「おおきなかぶ」の一場面をイメージする事ができた。子ども達の好きな絵本だったので、絵本の世界が広がっていった。絵本の中の世界で遊ぶ子ども達の感性を大切に育てていきたい。

【3歳児】11月 ドングリころがししよう

ベニヤ板で傾斜をつけたところでドングリを転がして遊んでいる。容器にドングリを入れ少しずつ転がし、ドングリが転がっていく様子を見ている。A児が大きなバケツにたくさんのドングリを入れ、一気に転がすと、勢いよく転がっていく様子が面白く、B児やC児も同じことをして遊ぶ。何回か繰り返した後、「せーのっ。」と言って一緒にたくさんのドングリを転がした。ドングリが転がっていく先に金タライを置くと、金タライにドングリが当たる大きな音が鳴るのが面白く、「わー。」と声をあげる。「もう1回しよ。」と誘い合いながら繰り返し転がす。ベニヤ板から外れて落ちてしまうドングリを見て、

「ドングリ落ちないようにしよう。」とC児が言う。保育者と一緒にベニヤ板に囲いを付けてとタライまで転がるようになり、満足する。D児は、ドングリが勢よく転がっていく様子を見て、金タライの中に入り、転がってくるドングリを体で受けたり、片手桶を使って体にかけていたりしている。金タライの中がドングリでいっぱいになり、「お風呂やー。面白いなあ。」と金タライがお風呂に見立てられる。A児、B児や集まってきたこども達は、思い思いの容器にドングリを集めて、お風呂をめがけて繰り返しドングリを転がす。お風呂に入りたい子ども達でいっぱいになり、「ぎゅうぎゅうやな。」と言いながら喜んでいた。



#### <評価>

- ・ベニヤ板の上を一気に転がっていくドングリの様子やタライに当たる音、ドングリが体に当たる感覚など、それぞれが面白さを感じ繰り返し遊んだ。
- ・ドングリをたくさん集めて準備したり、子ども達の遊びの様子を見守ったりして環境を整えることで、存分に遊ぶことができた。また、ベニヤ板から「ドングリ落ちないようにしよう」という子どもの言葉を受け止め、保育者が考えを出しながら一緒に囲いを付けたことで、遊びが続いていった。

#### 【4歳児】4月 やってみたい

進級したことで、遊びの場や用具が変わり、5歳児の遊びに興味を持って、見たり、やってみようとしたりする姿が増えてきた。砂、水、草花を使ってご馳走づくりを楽しむA、B児の近くで5歳児が色水づくりを始めた。保育者は「年長さんすごいなあ。何つくるんやろうなあ。」とA、B児に声を掛ける。A、B児は5歳児が色水づくりをする様子をじっと見つめ、「年長さんすごいなあ。私もやってみたい。」「どうやってつくるんやろう。」と興味を示す。5歳児を真似ながら、すり鉢に花と水を入れる。A児は紫色の花をすりこ木で混ぜてみるが、混ぜるだけでは色が出ず、「年長さんみたいに全然ならへん。」B児は「白色の花は混ぜてもずっと透明やなあ。」と困った表情で話す。そこへ、5歳児が来て、「教えたるか。こうやってお花をギュって潰しながら混ぜるねんで。白い花は色出えへんやろう。紫の花やったら綺麗な色になるで。」と伝える。5歳児に言われた通りにやってみたが、潰しながら混ぜることが難しく、うまくできない様子。そこで、保育者が「一緒にやってみよっか。」と声を掛け、一緒にやってみる。すると、A児「ほんまや。綺麗な紫色になってきた。」B児「やったー、できたー。」と色水が出来、綺麗な色になった喜びを共有したり、もう一回やってみようとしたり繰り返し楽しむ姿が見られた。



#### <評価>

- ・近くにいる5歳児の遊びに目を向けられるように声掛けをしたことで、新しい遊びにも興味を持って、意欲的に遊ぶことができた。
- ・色水づくりがうまくいかない姿に気付いた5歳児が声を掛けてくれたことで、道具の使い方を知り、自分なりに考えて、もう一度試してみようとする姿に繋がった。また、保育者がA、B児が試す姿を認め、手を添えて一緒にしたことや難しさや楽しさに共感していくことで、出来た喜びを味わったり、5歳児から遊びを学んで自分なりに遊んでみたりする姿に繋がった。

#### 【5歳児】10月 運動会ごっこしよう（運動会ごっこでの異年齢交流）

運動会後自由選択活動の際に友達と誘い合って体を使って遊ぶ姿があった。A児が「リレーしよう。」と、周りの幼児を誘っていた。周りの幼児も賛成し自分達で白線を引いたりリレーのバトンやコーンを進んで用意したりしていた。用意が整うと、チーム分けをして競争が始まった。同じチームの友達を応援したり声を出したりして盛り上げている。その様子を近くで見ていた4歳児が「いれてー。」と、言ったので「いいよ、一緒にやろう。」と、受け入れた。4歳児に分かるように優しい口調でルールを説明していた。遊んでいるうちに少しずつ人数が増え、楽しい思いを共有している姿があった。勝つためにチームのみんなで作戦会議をして走る順番を決め「ぼく、先走る



わ。」「4歳さんここに入る。」「誰が最後走る。」などと、積極的に発言しながら遊び込んでいる。より盛り上がっていたので遠くで遊んでいた3歳児もリレーに興味を示し「お兄ちゃん、ぼくもする。」と駆け寄ってきた。「いいよ。」と、快く受け入れ「ここ、走んねんで。」と、手取り足取り優しく教えている姿が見られた。受け入れられた子も嬉しそうな表情で走る順番を待っていた。

またB児は「バルーンする人集まってー。」と、周りの幼児を誘いながらバルーンができる場所を確保していた。「一緒にやりたい。」と、3歳児も4歳児も集まってB児がリーダーとなり振り付けを教えたり一緒に体を動かしたりして音楽に合わせて楽しんでいた。運動会を経験したことで自信に繋がったり、遊びを自分たちで進めようとしたりして生き生きと遊ぶ姿が見られた。異年齢とのかかわりも自然と増え、リーダーシップをとりながら楽しい思いを共有していた。3歳児、4歳児、5歳児も混ざり合っ  
て思いやりを持つことや一緒に遊ぶ嬉しさを体全体で味わった。



#### <評価>

- ・運動会での経験を遊びにいかしながら友達と一緒に遊びを進めようとする姿が見られた。友達を誘ったり異年齢の友達とかかわったりして楽しい思いを共有しながら遊びを進めていた。遊んでいるうちに年下の友達の思いを受け止めたり教えてあげたりすることで相手を思いやる気持ちに気づくことができるようになってきつつあると思われる。自分達で進めようとする姿を見守って、友達と楽しい思いを共有することで明日もしたいなど、わくわくしている姿に繋がった。

## 5. 研究の成果

- 乳児においては、毎日保育者との安定した関係の中で、生活を繰り返し積み重ねていくことで安心して遊べるようになる。子ども達が自分の興味のあることを自ら見つけられる環境を整えること、またその瞬間(わくわくドキドキしている姿)を保育者がそのことに気付き心を動かし子どもの楽しんでいることを保育者が認め喜ぶことの大切さを学んだ。
- 幼児においては、それぞれの年齢や発達に応じて主体的に遊べるように保育者が環境を整えたことで遊びを選び、必要な用具を使い分け、友達と共有することを喜んでいった。また、自ら考えわくわく心を動かしながら遊び込む姿が見られた。遊びの展開を理解しそれに応じた環境を整えることの大切さが分かった。

## 6. 今後の課題

- 子ども達の日々の生活の中で、各年齢で発達段階に即した保育内容の充実を図り子ども自らがわくわくと心を動かして子ども理解を深めながら主体的に遊びに取り組めるようにし、空間や環境構成の工夫と保育者の援助についてさらに追及していきたい。